

●在外選挙人登録受付出張サービス（ロンドリーナ市）

在クリチバ日本国総領事館は、パラナ州ロンドリーナ市において下記領事事務を行う「在外選挙人登録受付出張サービス」を開催致します。御不明な点、御質問などがございましたら、当総領事館までいつでもお気軽にお問い合わせ下さい。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

日 時：平成24年3月3日（土）
午前09：00～12：00
午後13：30～17：00

場 所：パラナ日伯文化連合会（ALIANCA CULTURAL）
RUA PARANAGUA, 1782 LONDRINA - PR
[TEL:\(43\)3324-4967](tel:4333244967)

取扱事務：○在外選挙人登録申請
○日本国旅券発給申請
（2月28日迄に作成完了した方は旅券の受け取りが可能です。）
○各種証明の発給申請
（2月29日迄に申請された方は受け取りが可能です。）
○戸籍・国籍に係る届出
○その他領事事務に関する相談

●日本国政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力によるパラナ州ノーヴァ・エスペランサ市・市立イエスの聖心病院の改修

2012年1月28日、ノーヴァ・エスペランサ市は、日本国政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力による「市立イエスの聖心病院改修及び医療機器整備計画」が完了したのに伴い、市立イエスの聖心病院の改修落成式を実施したので、次の通りお知らせ致します。

記

本件式典には、山口在クリチバ日本国総領事、マリア・ベナッチ市長、エディガー・ジュニオール副市長、イザベル・ヴァスコンセロス保健局長、ヴェラ・サンチニ市議会議長、カズミチ・コガ州保健局マリングア地方区保健局長、ニシモリ連邦下院議員、市議会議員、市職員、地元関係者及びノーヴァ・エスペランサ文化体育協会のフアビオ・ヤマモト会長を始めとする代表者など約60名が出席した。

ノーヴァ・エスペランサ市で唯一の救急指定病院である市立イエスの聖心病院は1996年の設立以来、統一医療保健システム（SUS）を利用する同市民及び地域住民の合計約7万人に総合的な医療サービス及び救急サービスを提供して来た。しかし市の慢性的な財政難により、高額な医療機器の購入および病院建物改修のための予算の確保は極めて困難な状況であった。こうした現状を背景に、同市は日本国政府に対し草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じた資金援助を要請し、日本国政府は右

要請を受け支援を承認、昨年1月31日にノーヴァ・エスペランサ市と在クリチバ日本国総領事館との間で、9万8205米ドルの贈与契約が交わされ、日本国政府は同病院が必要としている電気メスセットと麻酔器の購入および病院改修を支援することとなった。

今般の援助は、日本国政府が実施する「草の根・人間の安全保障無償資金協力」プログラムに基づいたものであり、同プログラムは日本国民が納める税金を財源とし、基礎教育、職業訓練、保健衛生及び社会福祉の分野において発展途上国の社会開発を支援することを目的としている。

改修落成式で、ヤマモト文化体育協会会長は「この度、ノーヴァ・エスペランサ市に対し草の根無償援助を頂き、市立イエスの聖心病院改修が実現したことは、病院関係者、市役所関係者及び市民全員にとって大きな喜びであり、また昨年の地震と津波で甚大な被害からの復興途中にありながら支援を続けている日本国政府と日本国民に対し、出席者を代表して心から感謝したい。また、今回の援助は地元日系団体であるノーヴァ・エスペランサ文化体育協会の協力なくしては実現しなかったもので、協力して下さった方々にも心から感謝したい。」旨述べた。

また、ニシモリ下院議員は、「日本国政府は、日本国民が納める税金を財源とし、ブラジルの社会開発を目的とする草の根・人間の安全保障無償資金協力を実施しており、これまでパラナ州399の自治体の内50に及ぶ市がこのプロジェクトの援助を受けた。今回のノーヴァ・エスペランサ市に対する援助に対し、改修落成式出席者及び市民の皆様が心から喜びを申し上げると共に、昨年の東日本大震災からの復興中にも拘わらずブラジルに支援を続ける日本国政府及び日本国民からの援助に心から感謝したい。現在、ブラジルはG20のメンバーとなり世界で第6位の経済大国となった、今度はブラジルが日本の経済援助を手本に、例えばアフリカ大陸の貧しい国々に対し、経済援助をする責任がある。」旨述べた。

続いて山口総領事は、「昨年の東日本大震災に対するブラジルからの様々な形での支援を頂いたことに対し、日本国政府及び日本国民を代表して心から感謝申し上げる。日本は、草の根・人間の安全保障無償資金協力という形で国際貢献を続けていくことが国際社会に対する日本の責務であると考えており、日本がこのような状況の中にあっても、今般同病院改修及び医療機器購入が実施できたことは誠に感慨深いものがある。1996年設立された市立イエスの聖心病院は、ノーヴァ・エスペランサ市および周辺市で唯一の総合病院で救急指定病院でもあり、今般の病院改修及び医療機器購入により同病院の医療サービスが更に充実し、同市民及び周辺市民の合計約7万人に対して大きく裨益するものと期待すると共に、日伯両国の友好の絆がより一層強化されることを願う」旨述べた。

最後にマリ・ベナッチ市長は「この度、日本国政府の援助でノーヴァ・エスペランサ市の市立イエスの聖心病院改修工事及び医療機器購入が無事完了し、地元の日系社会及び日系団体の協力で改修落成式を迎えることができ、本当に嬉しく思う。昨年、東日本大震災による地震と津波で甚大な被害を受け、復興途中であるにも係わらず支援を続けている日本国政府と日本国民に対し、ノーヴァ・エスペランサ市民を代表して心から感謝するとともに、これを機に日伯友好の絆が更に深まることを期待する。また、今回の支援で購入した電気メスセット、麻酔器そして建物改修により、同病院が提供している医療サービスが更に充実し、統一医療保健システム（SUS）を利用している人達が受ける恩恵は計り知れない。」と語った。